

所属・資格 社会福祉学科・教授

申請者氏名 今泉 礼右

研究課題		日本社会の構造問題としての社会的排除と若者の貧困についての研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	ヨーロッパ生まれの社会的排除概念も日本に定着してからすでにかなりの時間を経過している。その間、多くの業績も蓄積されている。元来この概念は、日本では貧困として捉えられていた。貧困の主な原因は失業にあるとあって良い。現代の生活（者）の中核は雇用労働者である。こうした生活は、様々な福祉制度によって守られながら、地域社会の中で営まれている。また生活を満たすニーズは雇用によって得た所得によって賄われている。しかし、家族や市場・地域社会は万能ではない。特にそれは若者に先鋭的に起こっているともいえる。本稿では、こうした若者の貧困を中心に社会的排除という視点から見てみる。
	研究の結果	かつて家族は、私的領域を中心に展開される「小宇宙」であった。しかし現在ではそれは多様化し、かつ単純化した。離婚率の急速な上昇や母子世帯等の増加は、単に福祉問題を惹起するだけでなく、社会における家族解体に拍車をかけてきている。こうした傾向は若者の家族依存度を高めパラサイトやフリーターのような不安定就労の原因ともなっている。昨今では、景気が好転し労働市場でも「売り手市場」といわれている。しかし現実には非正規雇用者が約4割を占め、何らかの意味で親世代に問題が生じれば、即座に社会的弱者へと転落する危機を孕んだ極めて不安定な存在といえる。もとより通常人は市場経済の中で生活しているのであり、多くの人々は、その支配の元に置かれている。しかし、さまざまな規制緩和政策は、こうした人々をより一層従属的な地位に置くこととなった。
	研究の考察・反省	いま労働市場を中心としてみて見みれば、労働基本権の緩和にもとづく様々な手段（例えばリストラなど）によって、多くの社会的排除が行われてきた。特に若者をはじめとする膨大な労働者が正規雇用から排除されてきた。労働や市場からの排除は、人々を孤独な状態に追いやり、社会生活そのものや地域社会からも排除された存在になることを意味する。そのため生活基盤は圧倒的に脆弱なものとなる。本稿の研究は、このような社会的排除の分析を主にするものであるが、そのためには多くの資料を徹底的に精査し、加えて実証的・具体的な調査にもとづいた解明に切り込んで行くことが必要であるが、この研究では、そのことが十分に行われていない。このことは大いに反省すべき点である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	なし	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		